

年間第16主日

マタイ 13・24-43

高円寺教会 2017.7.23 9:30 ミサ
クラレチアン宣教会 うめざき たかいち 梅崎 隆一神父

イエスによる今日のたとえ話の解説によると、「畑は世界を表し、良い種は神の国の子らで、毒麦は悪い子らだ」と言われています。しかし、神が全ての人間を創られ、悪魔が人間を創り出すことはできません。全ての人の心の中に神様の種と、それから神が蒔かれたのではない良くない種があって、それが芽生えていると考えたほうが良いのではないかと思います。

同じマタイの福音書の中で、「主が再び来られるときに、人を羊と山羊を分けるように右と左に分けて、右側を救われるものとして、左側を滅びるものだというふうにする」と言われます。救われる人と滅びる人の違いは、「小さいもの一人にしたかしなかったかということ」です。つまり「飢えている人に食べさせて、渴いている人に飲ませ、宿を貸し、病気の人を助ける」ことをしたかしなかったか。でも、よくよく考えると、生まれてから死ぬまで一点の曇りも無く良いことばかりしている人と、生まれて死ぬまでずっと悪いことをしている人などいないはず。必ず人間は両方を行います。そんなわたしたちは一方的に神様に救われるしかありません。

ある人たちは「では、そういう悪い麦は先に抜いておきましょうか」と言います。とても理想的に聞こえますし、善意からの発言です。それに対してイエスは、「良い麦まで抜くかもしれないから、やめたほうがいい」と禁止します。なぜなら人は、良い麦を悪い麦だと思い、それから、毒麦のほうが良い麦だと思って、抜くときに間違ってしまう可能性があるわけです。

世界の中には、毒麦だと思われるものがたくさんあるので、その悪い毒麦を抜き取ろうとし、混乱が起こっています。たとえば、テロなんていうのは毒麦の筆頭だ、あれは恐ろしいので、ああいったものが入らないようにしよう、あるいは、そういうものが生えたら抜くようにしてしまおうと、日本では2017年7月11日から共謀法（テロ等準備罪）というのが始まりました。言葉を変える

なら「あなたが毒麦か良い麦かは行政と国家が決めるので、それに従ってください」ということです。そして良い麦と悪い麦の根拠がよくわからない。国会での大臣の発言によると「花見のときに地図と双眼鏡を持っていく人、それは毒麦」なのだそうです。わたしが今話していることも、「テロの準備をしている」と毒麦宣告されたら、日本の国から引き抜かれてしまいます。基準が曖昧というのはとても恐ろしい。このように何が毒麦で良い麦を人が勝手に決め始めると結構危ういことがわかります。外国人への蔑視など、あらゆる差別もこれと同じものです。

教会も、理想主義に燃えて、「生ぬるい信者」とか「わたしたちの主義に合わない、だからそんな不屈き者を追い出そう」とやってしまったことが歴史の中で何度もあります。異端者の町と正統信仰の町との戦い、十字軍、魔女狩りなどを行いました。悪いものを追い出すことで理想郷を作り上げようとする、とんでもない結果を引き起こします。人間というのは、駆除すべき指定外来種ではなく、一人ひとり尊厳のある存在です。神様から愛されて造られ、神に立ち戻ることをいつも待ってもらっている、そんな存在です。

「良い麦は神様のことば」であることが聖書の中に書かれています。ですから、わたしたちは良い種と毒麦のどちらのことばに耳を傾けて自分の中に根付かせるのかを問われています。自分たちの心の中で神のことばを豊かに育て、三十倍、六十倍、百倍にして伝えていくことができたときに、社会はより豊かになっていきます。毒麦があるからその毒麦を抜くやり方ではなく、毒麦以上に良い種を増やしていくことのほうが、人間の生き方を豊かにしていきます。この世に毒麦が存在していたとしても、良い麦を増やし続け、みことばという命のことばの種を世界に撒くことによって、この地上に神の国が訪れたことを告げ知らせることができますよう、共に祈りましょう。